に，去る 6 月 7 日にコウシンソウの生態を探る目的で入谷の折，標高約 1,500 m Y 字峡手前の礫地にミヤマミミナグサらしい数株を発見した。しかしこのときは未開花だったので，約 1 ケ月後の 7 月 5 日再び訪ねたところ，開花している数株に出会い，ミヤマミミナグサであることがわかった。しかもそれらの中に花弁が 2 裂するだけのクモイミミナグサらしい 1 株も見出された。これらの植物はいずれも分布域が中部地方の高山に限られ，関東地方の高山には知られていないものだけに，果して自生のものかとの疑念もわいた。もし自生とすれば，短距離かも知れないが隔離分布の例というわけである。この点の解決を図ろうと，さらに 8 月 24 日に雲竜渓谷の最奥のほとんど前人未踏のアカナ沢の源流（標高約 1,950 m）に入り，ガレ場を探したところ，遂にミヤマミミナグサとクモイミミナグサの両者を確認することができた。しかも前回よりも株数が多く，約 2 平方米のところに 20 株ほども見出された。これは場所が前人未踏と言って良い程の難所だけに，移植とか播種されたものではなく，自生であると断言して良いと思う。これに関して，東京大学日光植物分園の久保田秀夫氏のお話しでは，1952 年の秋，同じく雲竜渓谷でミヤマミミナグサと思われる一種を見たが，花がなくて確認できなかったそうである。

女峰，赤薙連峰は日光諸峰のうちで噴出年代が最も古い山で，地形上壮年期を示している。その中で雲竜渓谷一帯は，夏の間上昇気流がたちこめて，常に冷涼な気候を示しているだけに，貴重な高山植物が遺存していることは十分考えられる。これまでに雲竜渓谷にはミヤマオトコヨモギ，コヒナリンドウ，イワオウギ，クモマナズナ，シコタンハコベ，タカネナデシコ，チシマゼキショウ，ヒメスギランなど日光の他の諸峰にみられない（ただしクモマナズナ，チシマゼキショウは男体山にも産する）高山植物を産することが知られている。今回のミヤマミミナグサ，クモイミミナグサの発見は雲竜渓谷を含めて，女峰，赤薙連峰の精査の必要性を強める資料となるだろう。なお中部山岳地帯ではミヤマミミナグサとクモイミミナグサとはそれぞれの分布区域を持っているそうであるが，雲竜渓谷では両者が混生する。さらに花弁の切れ方を注意して見ると，細かく切れこんだものと 2 裂するだけのものとの間に，或程度の中間段階的なものが存在する。この事実も中部山岳で見られるとのことではあるが，ここのように同一地点でというのではない。したがって雲竜渓谷源流地帯のミヤマミミナグサ，クモイミミナグサ混生の事実は，両者の起源を暗示するものかも知れない。

本文について種々ご教示をいただいた東京都立大学の水島正美博士に感謝致します。

（栃木県立壬生高等学校　吉村克之）

正　誤　(Errata)

第 45 巻 343 頁本文 14 行に農林とあるのは農林一号のことなので訂正する。

（下村裕子・栗山悦子）